

JREP

抗土圧構造物設計プログラム(Ver.3.0)

【特 徴】

- ①本プログラムは、JREP (Ver. 2.0) をベースに、近年改訂された「鉄道構造物等設計標準・同解説（耐震設計）（H24年9月）、（土留め構造物）（H24年1月）、（基礎構造物）（H24年1月）」に準拠して、設計法の変更対応、プログラムの機能の充実および性能の向上を図った改良を行ったものです*。
- ②本設計プログラムは、荷重の自動算出機能に特化し、抗土圧構造物の設計に欠かせない地震時主働土圧係数を算定のうえ、各種類の設計荷重（例えば自重、土圧、く体断面位置の荷重など）を求めることができます。
- ③地震時の場合、安定計算用ならびに前壁（く体）設計用に関する JRSNAP【静的非線形解析プログラム】用の連携データ（SLU ファイル）を自動作成し、JRSNAP と連携することにより計算や照査を行うことができます。
- ④地震時以外の場合、安定計算用ならびに前壁（く体）設計用に関する JRElastic【地震時以外設計プログラム】用の連携データ（ELU ファイル）を自動作成し、JRElastic と連携することにより計算解析を行うことができます。
- ⑤JRSNAP や JRElastic との正しい連携に必要な相互運用性の確保機能を備えています。
- ⑥ネットワークライセンス化により、バージョンアップが便利になりました。

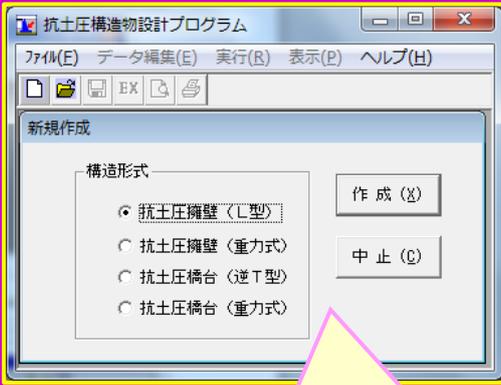
*JREP (Ver. 3.0) の改良に関する詳細は「[JREPの更新一覧](#)」をご覧ください。

【用 途】

- ①「鉄道構造物等設計標準・同解説」に準拠した抗土圧構造物の設計に利用できます。
- ②対象としている構造物種類は、抗土圧橋台と抗土圧擁壁があります。橋台の形式は重力式と逆T型があり、擁壁の形式は重力式とL型があります。
- ③画面入力データに基づき、地震時主働土圧係数を含める各種の設計荷重を算出するうえ、連携ファイルを作成し、JRSNAP や JRElastic との連携を通じて、構造物の応答値算出および性能照査（部材損傷・基礎安定）を実施することができます。

【動作環境】

- ①O S : Windows7®
- ②C P U : 512 メガヘルツ (MHz) 以上のプロセッサ(2.0GHz 以上を推奨します)
- ③メ モ リ ー : 512 メガバイト (MB) 以上 (1.0GB 以上を推奨します)
- ④プ リ ン タ ー : OS の動作環境に対応した機種
- ⑤そ の 他 : インターネットへ接続できる事(ライセンス認証用)

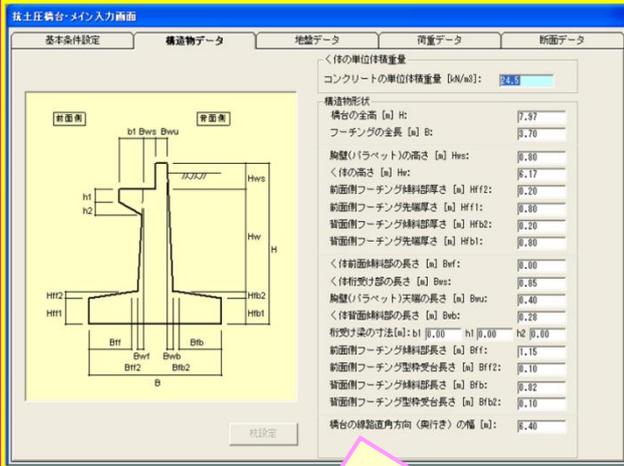


「構造形式」の選択画面

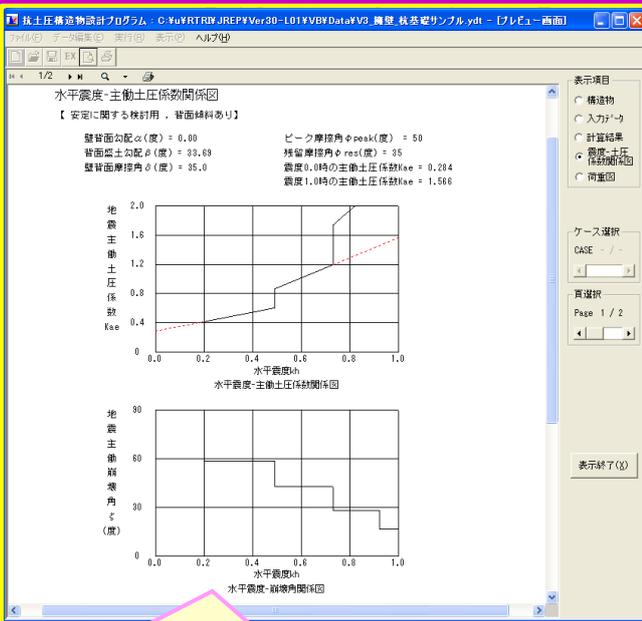
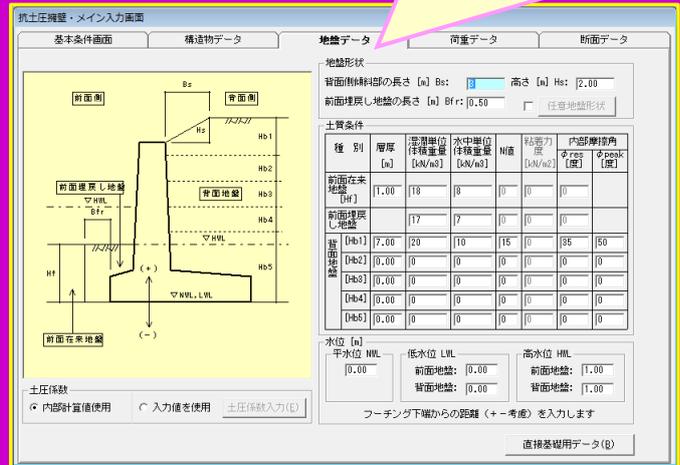
基本条件の入力画面



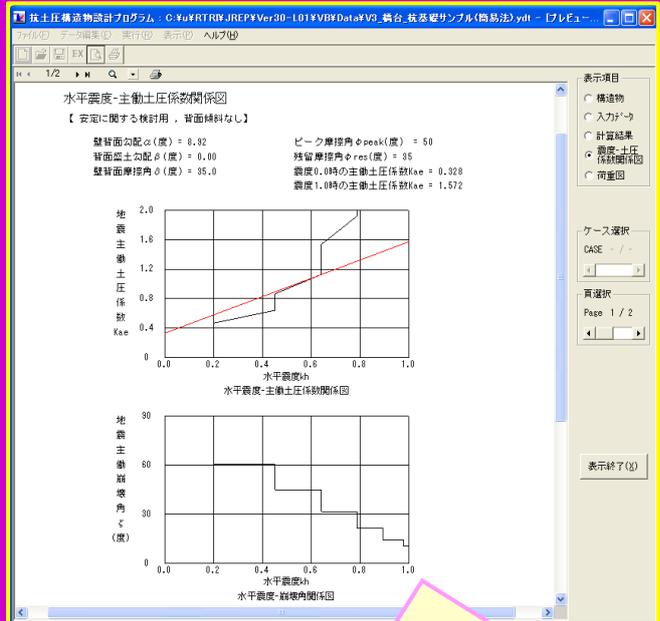
任意形状地盤における擁壁の入力画面



橋台のデータ入力画面



修正物部岡部式による土圧係数の結果



簡易法による土圧係数の結果

●開発：公益財団法人鉄道総合技術研究所

●発行：(株)ジェイアール総研エンジニアリング(ソフト販売窓口)

〒186-0002 東京都国立市東1-4-13 COI国立ビル

TEL 042-575-3821 E-mail support_sale@jrseg.co.jp URL <https://www.jrseg.co.jp/>